

# 一般質問

△森田議員▽  
 町長の施政方針に謳  
 われている持続可能な  
 まちづくりについて  
 ①人口減少や高齢化に  
 よる役員の担い手不足、  
 活動の縮小によって、



**問** 持続可能なまちづくり  
 のために何をするか  
**答** 今後も住民の研修機会  
 をつくっていく

地域の元気がなくなっ  
 てきている。  
 それを取り戻すため  
 に、どのような施策で  
 持続可能なまちづくり  
 を進めていくのか。  
 ②住民とともに考えて  
 いくというが、具体的  
 計画は。

△長屋町長▽

①本町の高齢化率は44%、平均年齢は55歳(日本の平均は46歳)、40歳以下の割合が27%。

若い人が少ないが、まちづくりは、若い世代だけが先導して行うわけではない。現に活動的で元気な高齢者も多い。

小さな町ならではのまちづくりを進めていかなければならないと考える。

施策としては、予算化したもの全てがそうである。

②町内会活動の downstairs として、町普請事業や

地区担当制をさらに進めていく。

ふるさとまつりのような、住民参加型のイベントについては、各団体・住民から企画・提案をしてもらって、共に考えながら実施していきたい。

町は舞台づくりを行い、住民の活動が一層積極的になるように取り組んでいきたい。

協働の意識醸成につながる、住民の参加する研修会の開催など、各種予算化をしている。

△森田議員▽

その考えを住民に理解・浸透させることが、課題でないか。

人づくりは、持続的  
 まちづくりにもつながる。早期に人づくりのための研修機会を増やすべきと考えるが。

△長屋町長▽

色々な機会に、文書

や言葉で発信をしていく。

町の役割は、住民が主体的に「こういう取り組みをしよう」、「こういう生き方を目指そう」ということが生まれるような、環境整備をすることだと考えている。

トップリーダーが引っ張っていく形での人づくりというのは、違うと思っている。

研修機会を設けるということは非常に大事である。今実施している町民大学や各種セミナーを今後も続け、自発的に取り組んでいく人が出てくるような環境整備をしていきたい。

△森田議員▽

町民に研修機会を与えることも大事ではないか。各町内会に研修機会を得られるような資料を提供するなど考えられないか。

△長屋町長▽

社会教育・まちづくり・福祉の分野等、色々な研修の機会を町としてつくっている。

参加する人は同じような顔ぶれが多いが、一人でも二人でも関心を持って参加し、意欲を持って色々なことに取り組むことが、まちづくりの一步になると考えている。これからも途切れることなく、研修機会をつくっていききたい。

# 一般質問

**問** ちょっと暮らし体験住宅の増設は

**答** 街中に確保することを検討したい

△森田議員▽

①ちょっと暮らし体験住宅は二区に1軒あるが街の中にもあってもよいのではないか。

空き家の情報提供や町の職員住宅を活用するなど検討しては。

②町のホームページにも移住交流推進の取り組みが少しは紹介されているが、熱心が伝わらない。

町の魅力、働く場所、

△長屋町長▽

極端な移住・定住の支援策は、移住・定住・人口減少の根本解決にはならないと思っ

ている。住んでいる人が、幸せを実感できるま

ちづくりが基本だと考えている。①平成26年から白鳥小学校の教員住宅1戸を

住宅、医療、福祉など

に対する町の支援策などをPRしながら、「我が町に来てください」という熱心さを伝えることが大事だ。

移住者を地域で応援できる環境を構築し、ホームページもリニューアルし、商工会と連携して、企業の魅力、募集や移住する人への支援や宣伝をもっと行うべきと思うが如何か。

場の40日程度の利用だったものが、昨年度は130日程度に増えた。利用者のアンケートでは滞在中は町の人たちと触れあいながら色々々と体験ができたという回答いただいている。

また場所は、今の所でよかつたという意見と街中にあつても良いという意見がある。

移住をするにしても、住宅、周辺環境、生活スタイルなど、様々なニーズがあり、それぞれに合う体験の場が必要だと思つるので、今後は街の中に適当な住宅を確保することも検討したい。

②熱心さを伝えるのは大事なことなので、どこに重点を置いてアピールするかなど、今後工夫していきたい。

△森田議員▽

全国の移住・定住に熱心な町のホームページを見ると、第一面ですぐ移住・定住の話が出てきて、熱心が伝わる。滝上も、町の良い政策をすぐ見られるような環境を整えるべきだ。

また、空き家情報も含めて検討しては如何か。

△長屋町長▽

今後十分にホームページ等の工夫もしながら、PRを効果的にやりたい。

空き家は過去に調査したが、空き家バンクの様な形での発信には至っていない。

現状では、空き家が出たときの動きが非常に早い。これは「ずっと住まいるたきのうえ支援事業！」で補助金を出している結果だと思つている。本当に使える空き家は少ないのが現状ではないか。もう少し情報を収集し、どのように活用するかを検討していきたい。